

メインタックル②

ROD

ヘラクレス・ファクト
HFAS-61ULST
(エバグリーン
インターナショナル)

陸王特有の5本制限を意識して選ばれた汎用的に使えるショートスピニング。細かなリグも扱える操作感と、掛けたら曲がるロッドをチョイス。

●フック：フィネスワッキー4番（ハヤブサ）※ルストクローラー11インチ（5.8インチ×2）●フック：フィネスワッキー #6（ハヤブサ）※ボウワームヌードル8インチに使用

REEL

24ルピマス
LT2500S-XH
(DAIWA)

軽くて質実剛健。扱いやすいリールとして愛用。「一番は軽いこと。ドラッグ性能も必要十分です」。

LINE

ザルツ
ザ・ブラックFC
4ポンド
(ラインシステム)

自由度が高い、しなやかさが魅力。「とにかく操作感がいいライン。硬すぎず柔らかすぎずです」。

メインタックル①

ROD

ヘラクレス・ファクト
HFAC-67MHST
(エバグリーン
インターナショナル)

「実は、HFAS-61ULSTを選んだのと同じ理由。どちらもソリッドティップ搭載で操作感が良いですね」。ほぼメインタックル。ルストクローラー5.8インチ×2のノーシンカーワッキーに使用。

●フック：パワーワッキー #1/0（ハヤブサ）

REEL

ジリオンSV TW
(DAIWA)

「スポットを撃つ釣りには、このリールを選んでいきます。選投ならシマノ系なんてすげだね」。

LINE

ザルツ
ザ・ブラック
14ポンド
(ラインシステム)

「これもしなやかさ、操作感を重視して選んでいます。ザルツシリーズの全体的な特徴だと思います」。

芝田昂平

キーポイントはロングワーム。その釣りを支えたタックルセッティング

2日間の試合、全ての釣果をストレートワームで叩き出した芝田さん。途中、ジョイントフカベイトフリーズやギョウカンス（ディスタイル）、スーパーフィッシュローラー（レイドジャパニーズ）なども投入しているが、釣果を支えたのは、ルストクローラー5.8インチディスタイルを2本接続した11インチ。そして、ボウワームヌードル8インチの実質2種類。

「メインにしたスピニングのヘラクレス・ファクトHFAS61ULSTはロッドの制限が5本という点もあって選んでいました。本来、メインにしていたノーシンカーのストレートワームの釣りはチューブラーでやりたい釣りですが、シェイクを使うような繊細な釣りも並行して行えるようにこのロッドを選んでいました。操作感も大事なので、あと、先調子だけと魚が掛かるとしつかり曲がるロッドじゃないとダメなんですよね」。

ベイトロッドについても、ほぼスピニングと同じ理由との解説。ちなみにこの2本はソリッドティップが採用されている。



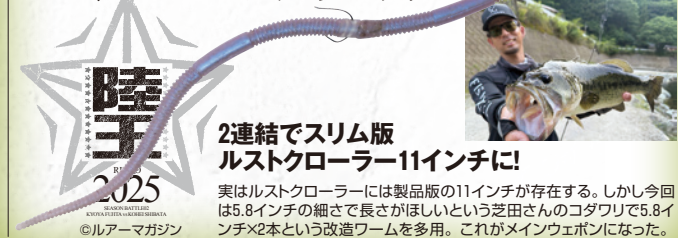
使用タックル

【ブルフラット5.8in用/ネイルリグ】●ロッド：ヘラクレス・ファクトHFAC-70HST（エバグリーンインターナショナル）●リール：パントAMGL XG（シマノ）●ライン：ザルツ ザ・ブラックFC 16ポンド（ラインシステム）【ルストクローラー11インチ ノーシンカー/無理やりジョイントフカベイト】●ロッド：ヘラクレス・ファクトHFAC-67MHST（エバグリーンインターナショナル）●リール：ジリオンSV TW（DAIWA）●ライン：ザルツ ザ・ブラックFC 14ポンド（ラインシステム）【ルストクローラー5.8インチ/カバーネコリグ2.2g】●ロッド：ヘラクレス・ファクトHFAC-68MST（エバグリーンインターナショナル）●リール：アルファスAIR（DAIWA）●ライン：ザルツ ザ・ブラックFC 12ポンド（ラインシステム）【ルストクローラー11インチ（5.8インチ×2）】●ロッド：ヘラクレス・ファクトHFAS-61ULST（エバグリーンインターナショナル）●リール：24ルピマスLT2500S-XH（DAIWA）●ライン：ザルツ ザ・ブラックFC 4ポンド（ラインシステム）【ルストクローラー5.8インチ】●ロッド：スタンドアウトSOS65ML（レジッドデザイン）●リール：セオリー 2506H（DAIWA）●ライン：オールドロスPEWX8 フィネスシャングリラ 0.6号（Xフレイト）

ヒットルアー

芝田昂平

ルストクローラー5.8インチ
2連結チューン（アイスフォーゲル）
ノーシンカーワッキーリグ



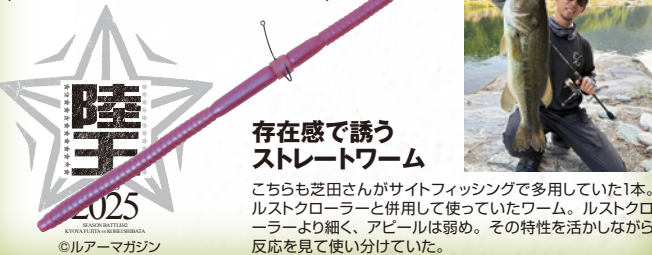
2連結でスリム版
ルストクローラー11インチに!

実はルストクローラーには製品版の11インチが存在する。しかし今回は5.8インチの細さで長さ他希望という芝田さんのコダワリで5.8インチ×2本という改造ワームを多用。これがメインウェポンになった。

ヒットルアー

芝田昂平

ボウワームヌードル
8インチ
(エバグリーンインターナショナル)



存在感で誘う
ストレートワーム

こちらも芝田さんがサイトフィッシングで多用していた1本。ルストクローラーと併用して使っていたワーム。ルストクローラーより細く、アピールは弱い。その特性を活かしながら反応を見て使い分けていた。

使用ルアー

芝田昂平

ルストクローラー5.8インチ
(アイスフォーゲル)
カバーネコリグ



カバー用として、投入されたネコリグ

試合中にカバーからキーパーサイズを絞り出したセッティング。「ルストクローラーはその太さと素材感がほかにはなかなかない」とは芝田さんの弁。

使用ルアー

芝田昂平

ルストクローラー5.8インチ
(アイスフォーゲル)
ノーシンカーワッキーリグ



最後に見つけた必殺の
中層フォールはこれで!

試合2日目の後半に見つけた、足が速いバスの進行方向にタイミングを合わせてフォールさせ、食わせるパターンには、この5.8インチをノーシンカーワッキーで使った。水面で誘う際はプロトのエラストマーモデルを使用。

藤田京弥

藤田京弥のオカッパリヘビー
バーサタイルとラインセッティングの肝

藤田さんが今回最も多投したシボフラット4.8インチのライトテキサスは、ステイーズリアルコントロール RC C73H-SV・STを使用した。「ヘビー表記ですがかなり汎用性が高いロッドで、カバージグ、テキサス、スミムベイト、ビッグスプーン、アンブレラリグなどいろいろ使えます。ソリッドティップを搭載しているからこそ汎用性が高く、繊細な操作も可能なんです。シボフラットをスル引きするとき、チューブラーだと引っ張りすぎて浮いてしまふんですが、このロッドだとボトムに食いつかせるように引くことができるんです。人間側のスキルで同じことをするのはお

そらく不可能なので、ソリッドティップだからこそできることになりまふ。僕は陸王のときはいつもこのロッドを使っていますね。僕の中でオカッパリのヘビーバーサタイルという位置付け」。今回シボフラット4.8インチで使用したタックルには、ラインにも肝があるという。

「ラインは20ポンドって言うのが大事です。ヴィヴィダスもそうですが、ラインの重みを利用してルアーをコントロールしたい。シボフラットもそのほうが移動距離を抑えて浮かずにスル引ける。あと、ラインは太いほうが隙間に挟まりにくいので根掛かりも減ると思います」。



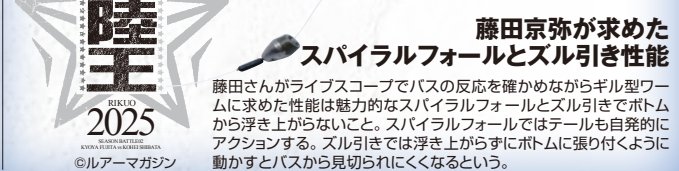
使用タックル

① [シボフラット4.8・ヴィヴィダス用] ●ロッド：ステイーズRC C73H-SV・ST ●リール：ジリオンSV TW 1000XHL ●ライン：レッドスプール 20ポンド（ジャッカル） ② [キングジミーヘンジ・シボフラット3.6・ドリフトクラブ用] ●ロッド：ステイーズRC C71MH-SV・ST ●リール：ジリオンSV TW 1000XHL ●ライン：レッドスプール 16ポンド（ジャッカル） ③ [ミナモ用] ●ロッド：ステイーズRC S61L-SV ●リール：イグジストLT2500S-XH +クイックドラッグノブ ●ライン：PEデュラセンサーx12EX+Si3 1.2号（DAIWA）+フロッド3.5号 ④ [ドリフトクラブ・ネコリグ用] ●ロッド：ステイーズRC S61UL-SV・ST ●リール：イグジストSF 2500SS-H +クイックドラッグノブ ●ライン：レッドスプール 4ポンド（ジャッカル） ※ロッドとリールは全てDAIWA

ヒットルアー

藤田京弥

シボフラット4.8インチ（ジャッカル）
3.5グラム
ライトテキサスリグ
+サイズ #7/0
(ジャッカル)



藤田京弥が求めた
スパイラルフォールとスル引き性能

藤田さんがライプスコープでバスの反応を確かめながらギル型ワームに求めた性能は魅力的なスパイラルフォールとスル引きでボトムから浮き上がらないこと。スパイラルフォールではテールも自発的にアクションする。スル引きでは浮き上がらずにボトムに張り付くように動かすとバスから見切られにくくなるという。

ヒットルアー

藤田京弥

ヤミィ3.8インチスリム
(ジャッカル)
1.3グラムネコリグ



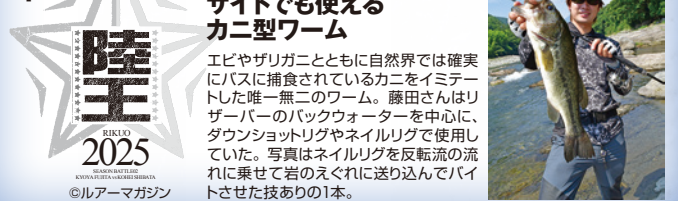
藤田京弥のライトリグサイトを
小さな実力者

オリジナルのヤミィ4.5インチの単なるダウンサイジングではなく、径を細くすることで圧倒的な食わせ性能を追求している。藤田さんはこれをネコリグで使用。サイトで発見したバスに口を使わせ、フィネスネコリグの食わせ能力の高さを実証した。

ヒットルアー

藤田京弥

ドリフトクラブミニ
(ジャッカル)
1.8グラム
ネイルリグ



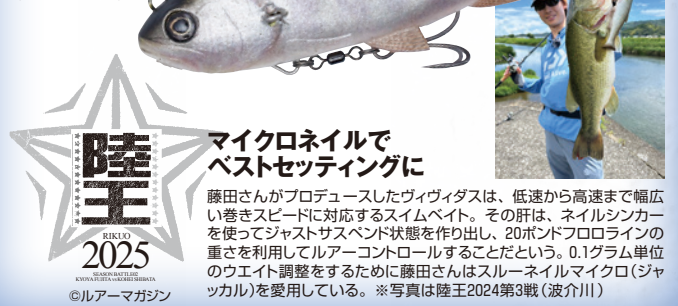
サイトでも使える
カニ型ワーム

エビやザリガニとともに自然界では確実にバスに捕食されているカニをイメージした唯一無二のワーム。藤田さんはリザーバーのバックウォーターを中心に、ダウンジョットリグやネイルリグで使っていた。写真はネイルリグを反転流の流れに乗せて岩のえぐれに送り込んでバットさせた技ありの1本。

使用ルアー

藤田京弥

ヴィヴィダス
(ジャッカル)



マイクロネイルで
ベストセッティングに

藤田さんがプロデュースしたヴィヴィダスは、低速から高速まで幅広い巻きスピードに対応するスミムベイト。その肝は、ネイルシンカーを使ってジャストサブベント状態を作り出し、20ポンドフロロラインの重さを利用してルアーコントロールすることだ。0.1グラム単位のウェイト調整をするために藤田さんはスルーネイルマイクロ（ジャッカル）を愛用している。※写真は陸王2024第3戦（波伏川）